

学校再開 子どもたちの学びを守るために



▲2011（平成23）年5月11日に登米市の旧善王寺小学校で行われた南三陸町立戸倉小学校の入学式。

子どもたちの日常は、あの日一変した。ほとんどの学校は高台にあり、避難場所・避難所に指定されていたが、その場所までもが津波にのみ込まれ、学校という地域の安全・安心の要はいつも簡単に崩壊した。戸倉小学校は全壊、戸倉中学校、名足小学校、伊里前小学校も浸水して校舎が使えなくなった。学年が切り替わる大切な時期にもかかわらず、学びの場が失われ、津波被害を免れた学校は避難所となり、大勢の住民が押し寄せて混乱を極めた。

子どもたちの学習再開が急がれた。登米市は2009（平成21）年3月に閉校した旧善王寺小学校を、戸倉地区の戸倉小学校、戸倉中学校のために開放してくれた。学校再開のために必要な机、椅子、黒板などの備品や簡易給食も、登米市から提供されたほか、さまざまな団体から子どもたちの学用品や文具などを支援していただいた。また、南三陸の複数の学校が避難所として使えなかったため、登米市は登米中学校に避難者を受け入れてくれた。寝具や衣類が用意され、避難したその日から寝具で休むことができた。

震災から2カ月後の5月10日に、町内の小中学校が再開した。児童生徒たちの声が久しぶりに校舎内に響いた。子どもたちが安心な日常を取り戻し、落ち着いて学習に取り組めるよう、教師たちは心を配った。

2012（平成24）年3月末まで戸倉小・中学校の児童生徒は、旧善王寺小学校に通い続けた。同年4月からは南三陸町内の被災を免れた志津川小・中学校にそれぞれ併設された。戸倉小学校は2015（平成27）年10月に高台に再建され、戸倉中学校は2014（平成26）年4月に志津川中学校と統合された。